

年次報告書 2023

子どもたちの明日



認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

年次報告書によせて

2022 年度も変わらぬご支援を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。
カンボジアでは3年ぶりに「国際こどもの日」のイベントが行われるなど、少しずつ日常を取り戻しつつあります。

さて当会は今年、大きな決断をいたしました。2011 年より実施してきた「村の幼稚園」事業をコンポンチュナン州に引き継ぎ、CYK の保育事業を 2023 年度で終了いたします。

「村の幼稚園」事業において、2022 年度までに開設された幼稚園は 31 園。そのうち 24 園がすでに地域の自主運営に移行しており、継続運営されています。カンボジアの幼児教育だけでなく、それを支える地域の力の育成にも貢献できたことは大きな誇りです。コンポンチュナン州の幼児教育責任者から「村の幼稚園」の取り組みを広く展開していきたい意向が示されたことは、地元の人々の可能性を信頼し、またその信頼を育てるために力を尽くした結果と思います。

「カンボジアを二度と難民を出さない国にする」という当会の決意は、今なお世界各地で起きている戦争や紛争に伴う難民の増加を背景に、世界に改めて広く伝えたいメッセージです。昨年のご挨拶にて、歴史ある当会の代表理事に着任した緊張を申し上げましたが、2023 年度は、これまでの皆様の思いを結集し、次につなげていく責任を果たしてまいりたいと存じます。最後までお力添えいただけますと大変ありがたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



代表理事 藤川 祥子

目次

年次報告書に寄せて・目次	2
2022 年度事業報告と 2023 年度事業計画	
Ⅰ カンボジア事業	3
Ⅱ 日本国内事業	6
2022 年度 数字とグラフで見る 幼い難民を考える会	
・ 2022 年度決算・監査報告書・2023 年度予算	7
・ 活動収支年度別推移表	9
幼い子どもと女性の自立のために当会を支えている人々と団体	
・ 2022 年度 補助金受け入れ先、寄付者、みんなで布チョッキン実施団体	10
わたしたちの組織	
・ 会員数、寄付者数、役員、職員、活動履歴	11

2022 年度事業報告と 2023 年度事業計画

Ⅰ カンボジア事業

1. カンボジア保育事業

1) 村の幼稚園

① 年間を通し「村の幼稚園」に子どもたちが登園し、ゆで卵などの補助給食を提供した。保育チームは州・郡の幼児教育担当や地区の女性とこどもの事業担当者と一緒にクラスのモニタリングを実施した。3 年ぶりに開催された「国際こどもの日」行事は、保育アドバイザーの考えで、今年は準備から実施までを保育者、委員会メンバーと州・郡の幼児教育担当に実施してもらった。前年に開園した3園のうち、トロピエンボーンの保育者が体調不良で休職し、委員会が代替りの先生を手配し、保育チームと郡の担当者がサポートした。チュンピアでは5 歳児の登録が少ないため、保護者への声かけを行なった。

その他、2021 年開設の「村の幼稚園」3 園にシーソーと屋根付き滑り台を設置した。





② 新規にコンボンチュナン州内に 2 ヶ所開設した。開園に先立ち、保育者は 20 日間の事前研修を受けた。2023 年度は新たに 3 ヶ所の「村の幼稚園」を開設予定である。

③ 7 月と 8 月に自主運営に移行したクロププル村とバックプノン村の幼稚園を訪問し、運営がスムーズに行われていることを確認した。2 園合わせて 74 名の児童が登録している。どちらも保育者は子どもたちの学びと成長を促すに適した活動を行っており、教室も整備されている。子どもたちも物怖じすることなく楽しくクラスに参加している。協力金も、クロププルでは 100%、バックプノンでは 70% 集まっている。

2) 公立地域幼稚園との保育者研修、地域のネットワークづくり

10 月 17 日から 19 日には「村の幼稚園」の保育者 8 名が参加してポリボー郡の 2 園の地域幼稚園への訪問研修を実施した。幼稚園運営の好例から子どもの指導・学び、関連する人たちとのコミュニケーションの取り方、幼稚園の持続運営のための資金集めなど具体的に学ぶ機会を得た。

3) 地域との協力促進事業

① 5 月 4 日から 7 日にかけ、「村の幼稚園」8 ヶ所の幼稚園管理委員 23 名を対象に勉強会を実施した。委員会の役割と責任、地域幼稚園のスタンダード認定取得に向けた評価方法やクラスを向上させるための年間計画の作り方を



学んだ。勉強会終了後、一部の村では計画の実施に必要な資金集めを開始した。9 月には「村の幼稚園」の運営委員メンバー 23 名がクドル地区の地域幼稚園を見学し、委員会による幼稚園運営の好例から学ぶ機会を得た。また 2 月 17 日と 18 日に「村の幼稚園」管理委員会メンバーが集まり、一年間の活動内容を振り返った。2022 年度に実行できなかった計画については解決策を話し合い、2023 年度の計画に盛り込んだ。2023 年度は 5 村の委員会にメンバーの役割と責任を理解し運営計画を作成するワークショップを実施し、10 村全ての委員会は年度末に期初の計画の進捗を振り返り、達成できていない事項の対策を検討し、翌年以降の運営に活かしてゆく

② 7 月に州と郡の幼児教育担当者による保護者向け学習会のトレーナー研修を実施した。参加した「村の幼稚園」の保育者たちは、保護者の学習会で自分たちの果たす役割と責任を確認し、プログラムを計画した。8 月から 2 月まで毎月、実際に学習会を開催した。3 世代にわたり与える影響や子どもの権利、子どもとのコミュニケーションと子どもの成長、栄養などを説明し、子どもが手伝える日常作業や罹りやすい病気の症状と予防などについて指導した。参加保護者は徐々に増え、怒りを抑えて優しい言葉づかいで子どもとのコミュニケーションが豊かになった。

③ 教育省から要請があった公立幼稚園 110 クラスとラタナキリ郡の地域幼稚園 75 クラスに対し、布人形 40 体、ボール 1,850 個を提供し、子どもの試験に活用された。2023 年度はコンボンスプー州、カンボンチャム州とプールサット州等、希望する全国の地域幼稚園 532 クラスと公立幼稚園 1,168 クラスに配布する。

2. 管理運営

1) 体制

プノンペン事務所では、フルタイムスタッフ4名、パートタイムスタッフ2名で事業を実施した。
難民キャンプ時代からCYRと活動を共にしてきた経理総務マネージャーが3月末で定年退職予定であったが、不可欠なスタッフであるため、就業規則の定年の年齢を改訂し、勤務を継続することになった。

2) 事業基盤の強化

知人への依頼やオンラインドネーション等を通して資金調達を進め、前年比58%増の寄付を集めた。

II 国内事業

1. 資金確保のための活動

ニュースレター発送時、募金のチラシを同封し、支援をお願いした。
2023年度の保育事業に対する助成金等9件(820千円)を申請し、6件(532千円)が決定した。

2. 広報その他の活動

- 1) ニュースレター「子どもたちの明日」134号(7月)、135号(11月)、136号(2023年3月)と2022年次報告書(6月)を発行した。
- 2) 6月19日にペン・セタリンさんによる講演会「もう難民にならない」を新横浜で開催した。
- 3) 6月15日に清泉女子大学で地球市民学科の学生70名に講演し、6月29日には、会の課題についてグループごとの提案を受けた。
- 4) 6月28日と12月20日に日本女子大学で「国際協力・ボランティア論」の授業で保育支援活動と女性の自立支援、織物研修等について説明した。
- 5) 8月26日にアジア生協協力基金公開オンライン活動報告会に参加した。
- 6) 2月聖心女子学院カンボジア体験学習の授業で会の活動を紹介した。
- 7) 大学生ボランティア2名よりホームページ記事作成、Twitter投稿などの広報支援を頂いた。
- 8) フォトジャーナリスト高橋智史さんから写真の提供を受け2023年度カレンダーを製作、販売した。2024年度カレンダーを製作販売予定である。

3. ボランティア・インターンとの協力促進

定例「ボランティアデー」は開催せず、ホームページの「今月の一枚」の記事作成、年次報告書のレイアウト、ニュースレターの原稿確認や発送作業など、随時、ボランティアをお願いした。2023年度はイベントなどへの参加もお手伝いいただく計画である。

4. 管理

事務局運営は在宅テレワーク制度を活かし、常勤1名、非常勤2名で行った。
理事会を以下の日程で開催し、会の運営や事業の進捗状況を確認、協議した：
2022年4月26日(第104回)、7月26日(第105回)、10月25日(第106回)、
2023年1月24日(第107回)、3月22日(第108回)、4月12日(第109回)



2022 年度 数字とグラフで見る 幼い難民を考える会

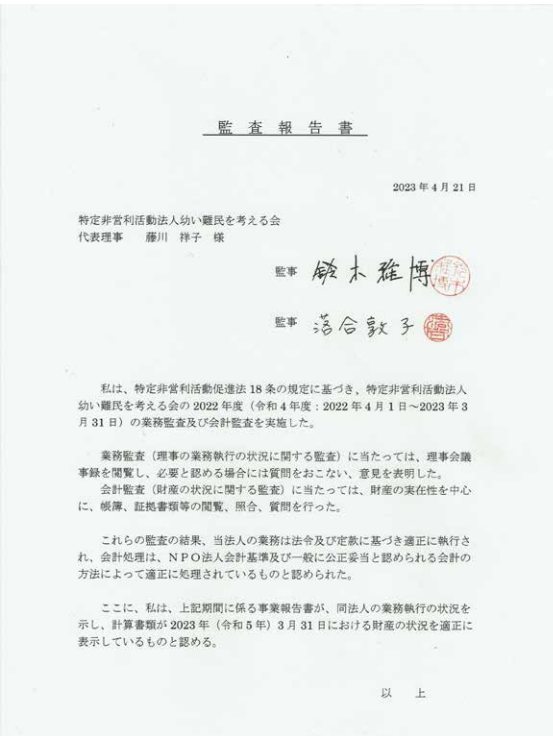
活動計算書(要約)

(自 2022 年 4 月 1 日至 2023 年 3 月 31 日)		(単位：千円)			
科目		2021 年度決算	2022 年度決算	増減	2023 年度予算
Ⅰ 経常収支					
1	会費収入	1,253	1,430	177	1,250
2	寄付収入	15,458	15,638	180	15,000
3	事業収入	1,301	462	△ 839	800
4	補助金収入	5,882	4,288	1,594	4,914
5	その他収入	-	1,006	△ 1,008	
経常収益計		23,894	22,824	1,070	21,964
Ⅱ 経常費用					
1	事業費				
	(1) 人件費	6,139	4,901	△ 30	11,204
	(2) その他経費	7,187	5,816	△ 152	12,091
事業費計		13,326	10,717	△ 182	23,295
2	管理費				
	(1) 人件費	9,829	10,831	1,002	8,403
	(2) その他経費	4,703	3,289	△ 1,414	2,699
管理費計		14,532	14,120	△ 412	11,102
経常費用計		27,858	24,837	△ 3,021	34,397
当期経常増減額		△ 3,964	△ 2,013	1,951	△ 12,433
Ⅲ 経常外収益					
1	その他収益	1,409	669	△ 740	
経常外収益計		1,409	669	△ 740	
Ⅳ 経常外費用					
1	固定資産除却損	-	-	-	-
2	その他費用	70	70		
経常外費用計		70	70		
当期正味財産額増減額		△ 2,555	△ 1,344	△ 1,211	△ 12,433

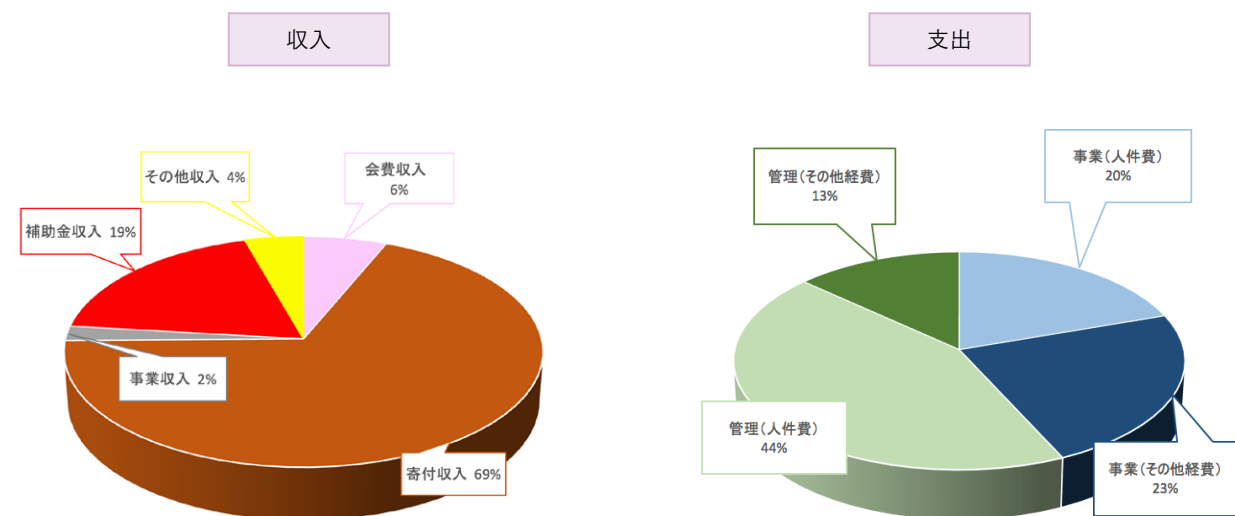
貸借対照表(要約)要更新

2023 年 3 月 31 日現在 (単位：千円)	
科目	
I 資産の部	
流動資産	33,084
固定資産	118
資産合計	33,202
II 負債の部	
流動負債	1,189
固定負債	4,664
負債合計	5,853
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	28,782
当期正味財産増減額	1,432
正味財産合計	27,350
負債及び正味財産合計	33,202

- 1. 会員数は微減であるが、年度を超えた会費納入があり会費収入は微増した。
- 2. 寄付金収入は前年度から横ばい。その他収入は賞金による。
- 3. 東京の事業収入は主にカレンダーの販売による。
- 4. 前年度比でみると、収入は1,069千円減、経費は3,020千円減、収支は1,211千円の改善となった。



2022 年度 収入・費用の内訳



2022 年度事業部門別 活動計算書

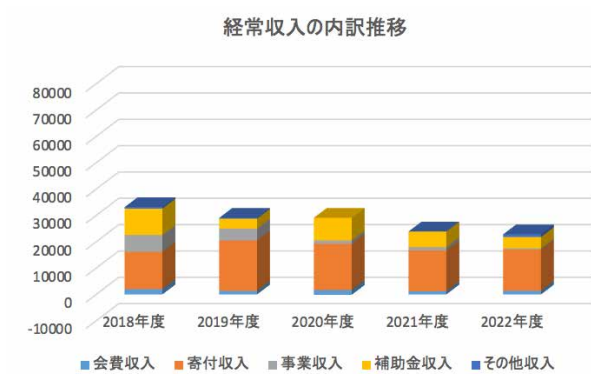
(自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)						(単位：千円)	
科目	合計	カンボジア事業		国内事業			
		保育	組織強化・管理	広報・事業	管理		
I 経常収益							
会費収入	1,430	0	0	0	1,430		
寄付収入	15,638	5,290	3,500	1,507	5,340		
事業収入	462	0	0	463	0		
補助金収入	4,288	4,288	0	0	0		
その他収入	1,006	0	500	0	506		
経常収益計	22,824	9,578	4,000	1,970	7,276		
II 経常費用							
人件費計	15,732	2,494	3,709	2,407	7,123		
その他の経費計	9,105	5,611	611	510	2,373		
経常費用計	24,837	8,105	4,320	2,917	9,496		
III. 経常外収益							
受取利息・外国為替換算差益	669						
経常外収益計	669						
当期正味財産増減額	1,344						
前期繰越正味財産額	28,781						
次期繰越正味財産額	27,367						

2023 年度事業部門別 活動予算書

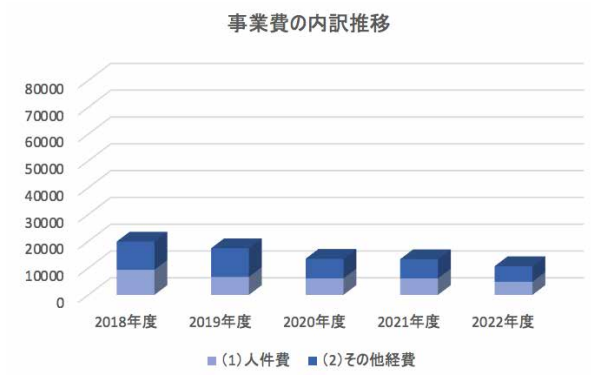
(自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)						(単位：千円)	
科目	合計	カンボジア事業		国内事業			
		保育	基盤強化・管理	広報・事業	管理		
I 経常収益							
会費収入	1,250	0	0	0	1,250		
寄付収入	15,000	5,080	3,350	1,445	5,125		
事業収入	800	0	0	800	0		
補助金収入	4,914	4,914	0	0	0		
その他収入	0	0	0	0	0		
経常収益計	21,964	9,994	3,350	2,245	6,375		
II 経常費用							
人件費計	19,607	6,574	3,773	4,630	4,630		
その他の経費計	14,790	10,516	675	1,575	2,024		
経常費用計	34,397	17,090	4,448	6,205	6,654		
当期経常増減額	△ 12,433	△ 7,096	△ 1,098	△ 3,960	△ 279		
当期正味財産増減額	△ 12,433						
前期繰越正味財産額	27,367						
次期繰越正味財産額	14,934						

活動収支年度別推移表

(単位：千円)					
科目	2018 年度決算	2019 年度決算	2020 年度決算	2021 年度決算	2022 年度決算
I 経常収支					
1 会費収入	2,039	1,383	1,703	1,253	1,430
2 寄付収入	14,105	19,107	17,555	15,458	15,638
3 事業収入	6,436	4,505	1,249	1,301	462
4 補助金収入	10,014	3,770	8,601	5,881	4,288
5 その他収入	552	313	△ 102	0	1,006
経常収益計	33,146	29,078	29,006	23,894	22,824
II 経常費用					
1 事業費					
(1) 人件費	9,378	6,720	6,169	6,139	4,901
(2) その他経費	10,514	10,704	7,339	7,187	5,816
事業費計	19,893	17,425	13,508	13,326	10,717
2 管理費					
(1) 人件費	6,037	7,962	9,052	9,829	10,831
(2) その他経費	5,014	5,144	5,688	4,703	3,289
管理費計	11,052	13,107	14,740	14,532	14,120
経常費用計	30,945	30,533	28,248	27,858	24,837
当期経常増減額	2,201	△ 1,454	757	△ 3,964	△ 2,013
III 経常外収益					
当期正味財産増減額	△ 70	△ 70	△ 1,459	1,409	669
前期繰越正味財産額	2,131	△ 1,454	△ 769	△ 2,555	△ 1,344
前期繰越正味財産額	31,570	33,701	32,176	31,406	28,781
次期繰越正味財産額	33,701	32,176	31,406	28,781	27,367



経常収入の内訳推移
会員や寄付者の減少により、過年度 5 年間の平均より会費収入が 10%、寄付収入が 6% 減少している。



事業費の内訳推移
織物事業の終了により、2020 年度以降は事業経費が減少傾向にあり、2022 年度は前年度比 20% 減で推移している。

管理費の内訳推移
人件費は徐々に増加、経費は減少で推移している。総額で事業費を上回り管理費偏重の支出構造が顕著となっている。



幼い子どもと女性の自立のために当会を支えている人々と団体

(2022年4月 1 日～2023年3月31日入金分を記載しています)

2022 年度 補助金・助成金を通じてご支援いただいている企業・団体

・ 日本労働組合総連合会	-----	1,300,000 円
・ 一般財団法人ゆうちょ財団	-----	992,765 円
・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン厚木	-----	800,000 円
・ 全日本自治体労働組合（自治労）福岡県本部	-----	700,000 円
・ 花王ハートポケット倶楽部	-----	200,000 円
・ 花王株式会社	-----	200,000 円

2022 年度 寄付者（10 万円以上の団体、あいうえお順）

幼い難民を考える会チャリティ・バザーグループ
株式会社一五不動産情報サービス
かみひとねっとわーく京都
CANTATE DOMINO
キューピー株式会社
全国友の会
東京海上日動あんしん生命保険株式会社

特定非営利活動法人 WE ショップたま
特定非営利活動法人 WE21 ジャパン伊勢原
株式会社ビジネスパートナー
株式会社ビリダリッジ
三菱商事株式会社
ライフティ株式会社
株式会社ロイヤリティマーケティング

2022 年度 「布チョッキン募金」 寄付者（10 万円以上の団体、あいうえお順）

・ MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ	・ ハーゲンダッツジャパン株式会社
・ 教覚寺女性の会	・ ハンモックツリー
・ サントリーホールディングス株式会社	・ マイクロソフト株式会社
・ 株式会社ジェーシービー	・ 丸紅株式会社
・ 聖心女子学院	
・ 東京海上日動あんしん生命株式会社	実施協力団体
・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン伊勢原	・ 公益財団法人フィランソロピー協会
・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン大和	

わたしたちの組織

会員数・寄付者数・役員・職員

会員数

内訳	2017 年 3 月末	2018 年 3 月末	2019 年 3 月末	2020 年 3 月末	2021 年 3 月末	2022 年 3 月末	2023 年 3 月末
個人	284	241	215	135	144	127	119
団体	9	7	8	7	6	6	8
学生	4	4	3	1	0	0	0
計	297	252	226	143	150	133	127

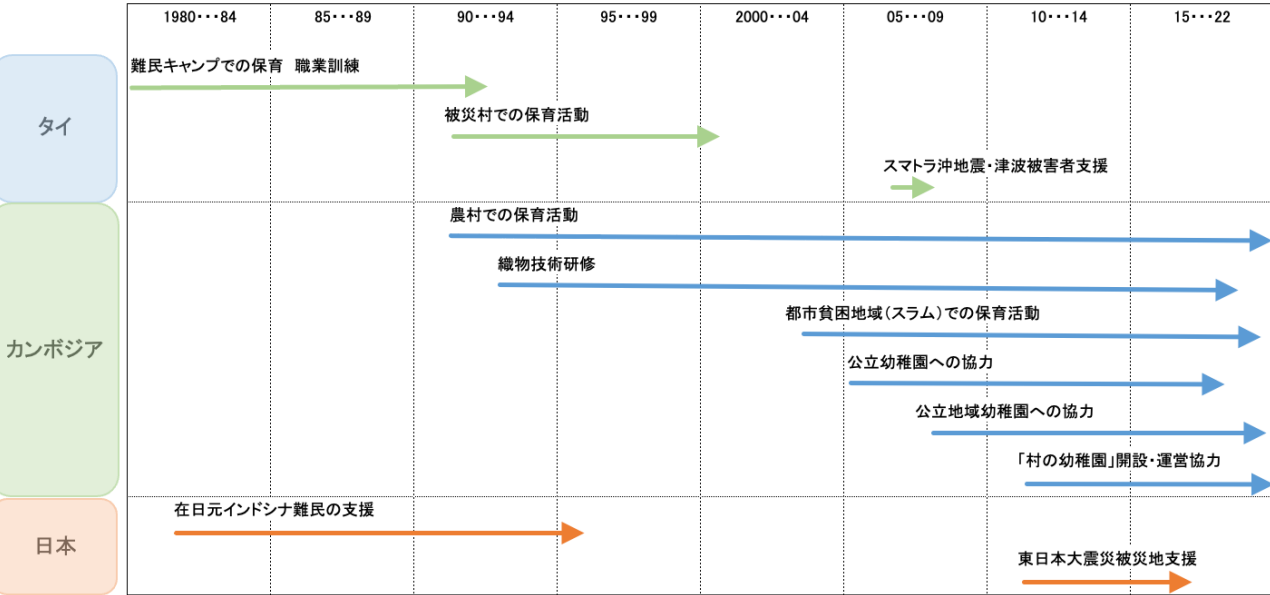
寄付者数

	2017 年 3 月末	2018 年 3 月末	2019 年 3 月末	2020 年 3 月末	2021 年 3 月末	2022 年 3 月末	2023 年 3 月末
計	523	438	441	442	393	393	342
個人	445	348	379	370	328	346	295
団体	78	90	62	72	65	47	47

役員

2023 年 3 月末現在		職員	
代表理事	藤川 祥子	2023 年 3 月 31 日現在	
副代表理事	関口 晴美	東京事務局 ： 3 名（事務局長 片山 美紀）	
理事	草野 榮雅	ブノンペン事務所 ： 6 名（所長 チャン・スレイ）	
理事	大垣 洋子	2023 年 4 月 1 日現在	
理事	諏訪井 セタリン	東京事務局 ： 2 名（事務局長 片山 美紀）	
監事	鈴木 雅博	ブノンペン事務所 ： 6 名（所長 チャン・スレイ）	
監事	落合 敦子		

活動履歴



幼い難民を考える会の理念

幼い難民を考える会、その原点「カオイダン難民キャンプ」から43年。
掲げる「理念」は、私達の活動の根幹として変わることなく受け継がれている。

Children, Our Future

今日の子どもの幸せが、明日の平和な世界へつながります。

1980年、内戦により難民となったカンボジアの子どもたちがタイ国境の難民キャンプの恵まれない環境のなかで少しでも人間らしい環境と必要な配慮のもとで暮らせるようにとの願いから、幼い難民を考える会（CYR）の活動は始まりました。

難民キャンプ閉鎖後は、復興をめざすカンボジアの農村で子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立を支援する活動に取り組んでいます。

会の名前を「難民の子ども」ではなく「幼い難民」としたのは、子どもという独立した人格を尊重する立場から、子どもたちの成長が守られて初めて、祖国を逃れてきた人たちの、あるいは、その国の自立の問題に結びつくと考えたからです。

また、「考える会」としたのは、助けるという意識がしばしば相手の自立を侵したり、相手を管理する体制に陥りがちであることを認識し、難民問題をいろいろな側面から考えていきたいという会の基本姿勢に根ざしています。

私たちはこれからも、さまざまな理由により厳しい境遇に置かれている子どもたちの健全な成長を支援し、その保護者たちが人間らしい生活環境のもと自立できることをめざしてひとつひとつの小さな積み重ねを大切にしていきます。そのことが、難民を生み出さない、明日の大きな平和を創る力となることを、信じています。



■ プノンペン事務所（2020年10月下記に移転）

Borey Piphub Thmey Chhouk Va III
#55, St. 05, Prey Sala Village, Sangkat Kakab,
Khan Posen Chey P.O Box 12,
Phnom Penh, 12406, Cambodia
Email: info@cyk.org.kh
URL: www.caringforyoungkhmer

■ 東京事務局（2020年8月同ビル内で移転）

〒110-0016
東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3B
TEL: 03-6803-2015
Email: info@cyr.or.jp
URL: http://www.cyr.or.jp

会費のお振込み、活動へのご支援は、こちらまでお願いいたします。

郵便振替 00110 - 8 - 36227
三菱UFJ銀行 六本木支店（普通）1351747
特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

* CYRは、認定NPO法人です。ご寄付は、寄付金控除の対象となります。

2022年度年次報告書 2023

発行日：2023年7月 発行者：藤川 祥子

紙面レイアウト：松下 旦